

# 昔々のそお市

むかしむかし

郷土を知る

社会教育課 文化財係 ☎ 099-482-5958

第25回



## 鏡の持つ霊力

### 現

在は生活必需品として利用している鏡ですが、その歴史は非常に古く、また利用方法も過去と現在ではやや異なるものでした。

世界最古級の鏡は、トルコのアナトリア高原にある、紀元前5千年のチャタル・ヒュク遺跡で検出した巫女の墓の副葬品で、黒曜石を磨き上げた鏡が出土しています。中国では紀元前3千年ごろの齐家文化期の青銅鏡が古く、日本へは呪術具・祭祀具として、弥生時代前期ごろに朝鮮半島を経由してもたらされました。

日本神話でも鏡は登場し、アマテラスオオミカミが天の岩戸に隠れになった時の八咫鏡の話や、ヤマトタケルノミコトが東北蝦夷の討伐の際に、鏡を掲げて呪力で制圧した話などがあります。また人間に化けた妖怪や化け物の姿を鏡に映すと本来の姿が現れるとか、地獄の審判場にある鏡は、生前の悪事を映すという話もあります。鏡には霊力や呪力があり、虚実を映す特別な力を持つと考えられます。

古くは権威や権力、支配者の特殊能力を示す象徴となり、その後は御神体として祀ったり、魔除けや儀礼に用いたりするようになったとされています。

市指定文化財には、太田神社に納められていた鎌倉期と南北朝期の6面の鏡があり、現在は大隅郷土館に展示されています。これらは背面中央にヒモを通すための鈕（ちゆう）が作られ、文様からそれぞれ鏡の名前が付けられています。

- 鎌倉期のものは
- ① 菊花雙鳥鏡
  - ② 梅花雙雀鏡
- 南北朝期のものは
- ③ 梅花雙雀鏡
  - ④ 菊花紋雙雀鏡
  - ⑤ 菊花雙雀鏡
  - ⑥ 亀甲地雙雀鏡

素材はやや錫の配合が多い青銅で、現在は緑青が浮いていますが、保存状態は良好で、鋳造時は鈍く銀色に輝いていたと考えられます。市内の多くの神社に鏡が奉納されています。鏡の持つ神聖な力で災厄を免れるという祈りや、神前で自身の姿が映し出されるという戒めが込められていると考えられます。



【展示 大隅郷土館】  
曾於市大隅町中之内9146



太田神社の鏡